

核兵器のない世界へ。仲間と共に歩む平和への誓い

このたび日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）がノーベル平和賞を受賞されたことに対し、心よりお祝い申し上げます。被爆者のみなさまの長年にわたる平和実現へのたゆまぬ努力に、深く敬意を表します。日本被団協のみなさまは、言葉にできないほどの苦しみを乗り越えながら被爆体験を語り継ぎ、核兵器の惨禍を世界に訴え続けてこられました。その声は、戦争を知らない私たちに戦争の悲惨さ、そして平和の尊さを改めて気づかせてくれます。私たち青年団は、過去の過ちを繰り返さないため、二度と戦争を起こしてはならないと誓いを立て、70年以上にわたって地域でひたむきに活動を続けてきました。今回の受賞は、核兵器廃絶への国際的な機運を高める大きな一歩となります。

しかし、世界にはいまだ多くの核兵器が存在し、核の脅威は依然として根強く残っています。私たちは未来を担う世代として、核兵器のない世界の実現に向けて積極的に行動していく必要があります。そして日本政府へ、核兵器禁止条約への早期批准を強く求めていきましょう。日本は、唯一の戦争被爆国として、核兵器廃絶を訴える道義的な責任を負っています。

また世界に目を向けると、核兵器の使用を示唆する発言が横行し、第三次世界大戦の開戦を危惧する声すら大きくなりつつあります。こうした状況だからこそ、被爆体験を語り継ぎ、平和の大切さを次の世代へ伝えていく必要があります。そして、ノーベル財団が評価し受賞へとつながった「草の根の取り組み」を、日本だけでなく世界を巻き込む取り組みへとつなげていかなければなりません。学校や地域だけでなく、あらゆる媒体を通して平和学習を深め、その担い手として行動してきました。

平和は、国境を越えた普遍的な価値です。核兵器のない世界の実現は、一朝一夕にできることではありません。しかし、私たち一人ひとりが小さなことから始め、行動を起こすことで、必ずや大きな変化を生み出すことができます。私たち日青協でも、地域で平和学習会を開催したり、ヒバクシャ国際署名活動を実施したりと、様々な取り組みを行ってきました。また、私たち一人ひとりの個人の取り組みとしても、投票への参加や、平和に関するイベントへの参加、SNSで平和のメッセージを発信などできることがあります。ノーベルの理念の芯なる部分は、一人ひとりの献身が社会に変革をもたらすことができる、という信念です。その意味で、私たち若者にできることは数多くあります。

今、私たちが平和への希望の光となる時です。共に手をつなぎ、核兵器のない、より良い未来を築いていきましょう。

2024年10月15日 日本青年団協議会コアメンバー